

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
13	川崎市立御幸中学校	吉村 尚記

学校教育目標	今年度の重点目標
「心を磨き、地域・社会に貢献できる人へ」 ～自律心・向上心・認め合う心・思いやる心・協力する心・感謝する心～	①基礎・基本を大切にした学力の向上 ②心の通い合う人間関係の育成 ③魅力ある学校の創造 ④市民に信頼される公教育の実現

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 指導内容の充実や授業形態及び展開の工夫	教科等の授業における生徒個々への適切な学習指導、各授業の指導内容の明確化、発問、教材の工夫と「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業力の向上	GIGAスクール構想推進協力校として2年目を迎え、全教科でGIGA端末を使用した授業実践を積み上げた。今年度は、教科の枠を超えて研修の機会をもたことで、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりが実践できた。社会科と数学科の地区授業研究会においてもGIGA端末を活用した授業実践を公開し、日頃の取り組みを評価していただいた。	経験の浅い教員への区担当訪問指導や管理職等による校内での授業観察、同じ教科間での意見交換により、教員が自身の授業内容を振り返り生徒の実態に即した授業づくりを行えるようになってきている。校内でのOJT研修が日々の業務の不安や課題を解消する場となり、前向きに教育活動に向き合える職員が増えている。次年度も複数教科の授業研究会を企画し、授業力の向上を図る。
2 TT,少人数授業を含めた一斉授業の中での習熟度に応じた丁寧な学習指導の推進	習熟度別授業やTTを含めた授業形態の工夫の推進と効果検証に基づく、指導法の工夫改善	数学では、2年生で1クラスを2つに分けて少人数の授業を行い、生徒をきめ細かく観察し、効果的に指導してきた。英語では、1年生でTTの授業を実践し、3小学校から集まる生徒の学力差を補った。保健体育では、個性を尊重した種目選択ができるように種目数を増やして少人数指導を行い、成果を得た。	英語はTTを行うが、取り出し授業の検討もしたい。数学については、2学年において全授業を少人数で行い、より手厚い支援を行いたい。体育は安全配慮を第1に考えていきたい。
3 心の教育を重視し、いじめや暴力行為が絶対に許されないという考え方の定着	教員による適正な指導と学級・学年や生徒会活動を軸とした啓発活動等による学校内の良好な雰囲気づくり	昨年度に引き続き、いじめ暴力防止の標語作りやポスター制作など生徒が主となる啓発活動を実施した。今年度は特にリーフレットを活用した研修を行ったが、いじめや暴力の未然防止に対する教員の認識やスキルをさらに高めていく必要性を感じている。	いじめや暴力を絶対に許さないという教員の認識を改めて深め、日常的に教師の姿勢を生徒に示すことや、教育相談や効果測定後の検証等を活用して積極的に生徒の小さな変化を見逃さずに初期対応できる姿勢が作れるように研鑽を積む。
4 生徒の内面への共感的理解に基づく相談活動の推進及び支援や指導による良好な人間関係の構築	計画的な教育相談活動の実践とOJT等による教育相談スキル向上及び共生*共育プログラムの実施と効果測定による検証 スクールカウンセラー、支援教育コーディネータとの連携推進及び専門家による助言体制の確立	年5回の教育相談を設定し、生徒が抱える悩みや課題について担任以外の教職員が相談に乗ることができる体制を整えた。経験の浅い教職員がベテランから教育相談の方法を教わる場として、OJTを機能させた。全体として、全教職員の教育相談のスキル向上が図れるような研修を考えていきたい。	次年度も教育相談の一層の充実に重きを置き、年間の回数も確保していきたい。また、担任以外との教育相談の場も設定し、生徒のための多くの相談窓口を作り、効果を上げたい。生徒・保護者からの相談等に対しても適切に対応し、必要に応じて関係機関との連携も図りながら、生徒・保護者が抱える悩みや課題の解消を図っていく。
5 一人ひとりの生徒の特性と教育ニーズを踏まえた支援体制の確立	学習室の運用を含めた支援教育と生徒指導との融合による適応支援及び登校支援の推進	支援コーディネーター中心に学習室の運営をし、一定の成果を得ているが行き渡りの生徒がより学習室を利用しやすい環境を整える必要性も感じている。また通常級に在籍しているながらも、個別級や通級指導教室等で何かしらの支援が必要となる生徒に対して、各教員の情報共有から自校通級や学習室へつなぐケースもあった。	次年度は、学習室を学習するための教室だけではなく、放課後、相談ブースとしての機能ももたせていきたい。また、通常級で困り感のある生徒を学年内での情報共有を密にし、校内支援を充実させるための体制を整えていきたい。特に勉強の仕方がわからず学習に不安を抱えている生徒については、「みゆき教室」で個に応じた学習支援を推進していく。
6 自己肯定感・自己有用感が高められる教育活動の工夫・改善	生徒の主体的な参加による学級会活動等での話し合い活動の定着 生徒の話し合い活動を軸とした学活、総合的な学習の時間、各教科の授業実践と検証	生徒主体での学校づくりの取組が始まり、行事の企画・運営や学校生活のきまりの見直しも生徒の発議によって議論がスタートしている。自分たちの学校を自分たちの手で作り上げていく意識が醸成されている。話し合いの場面ではGIGA端末を有効に使い全校生徒の意見を吸いあげ工夫も行っている。自分の意見が全体の場で扱われることにより自己肯定感・自己有用感の高まりにつながっている。	学級内での話し合い活動において自由に意見が言える場を保障することが、自己有用感を高め、自分たちの学校生活を積極的に見直し、改善を図ろうとする姿勢につながるものと考え。対話的な学びは、道徳、学活、総合的な学習の時間に多く取り入れるため、計画的に探究的な学習を取り入れ、発展的な考え方が身につくように工夫したい。
7 心身ともに健やかで安心・安全な学校づくり	教員個々の適性や能力に応じた分掌配置と職や経験年数に応じた業務配分による機能化と効率化の実現	健康教育・保健指導において心身の健康と安全についての学習が適切に行われた。また、今年度は外部から講師を招き、2・3年生で薬物乱用防止教室を実施した。教職員研修としても、「SOSの受け止め方教育」、「不審者侵入対策」に関する研修を実施し、安心・安全な学校づくりのため知識を得ることができた。	次年度も職員会議や職員研修において、養護教諭を中心に健康教育の重要性を教職員で共有するようになる。また、生徒の安全・安心に関わる研修は次年度も計画し、教職員のスキルアップを図りたい。
8 地域にある学校としての地域・保護者への情報発信及び家庭・地域とともにあゆむ教育活動の推進	地域や保護者が参加しやすい学校行事等の企画及び各種通信等による情報発信 地域行事やPTA活動への積極的な参加 地域関係者の学校行事へ積極的な招聘	各種便りの定期発行等により、情報発信を行っている。また、ママモルモを利用して、学校からの伝達事項を確実に保護者に伝えるようにした。各学年行事の際にも、生徒の様子を積極的に発信した。各種保護者説明会に保護者が参加しやすいような条件を整えるよう工夫した。	保護者が学校に來校しやすいように諸行事等の日時の設定を工夫するとともに、授業参観・学級懇談会などの保護者の来校機会をしっかりと設定したい。今年度は部活動単位ではなく生徒自身が住んでいる地区の地域行事に生徒自身が希望し参加した。次年度も生徒が地域行事に積極的に参加できるように環境を整えて協力していきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
○生徒の目標達成までに、先生方にいつも導いていただいて大変嬉しく思っている。 ○生徒が主体的に考え、行動をすることがかなり認められている学校だと思います。 ○多様性の時代、ますます人権尊重は学がべきことである。個性を認めて、命を守る授業をたくさん行ってほしい。 ○授業参観の際、学活ではなく主要教科の授業を参観できる機会を設定してほしい。 ○学校では挨拶をしてくれるのに地域で会っても挨拶してくれないので挨拶を徹底してもらいたい。 ○地域祭りに自分の住んでいる地区の生徒が参加する今年のやり方を次年度も継続してほしい。	○学校教育目標を各行事で意識して計画を立て、実践することができた。次年度も継続していきたい。○GIGA端末を活用した授業実践が行われ、生徒の学習意欲を高めることができた。次年度は学習内容の深まりに視点を当て、全教科で授業改善を図りたい。○生徒自身の手によって学校行事を企画・運営する「えがお創造プロジェクト」を推進し、自己肯定感と自己有用感をさらに高めていきたい。○学校生活のきまりの見直しを含め、生徒自身が自分たちの学校生活をより良くするために声を上げる場をこれからも確保し、話し合い活動を通して解決する手法を身につけさせたい。○スポーツフェスティバルや御幸祭は、生徒たちのアイデアを前面に取り入れて生徒自身が創り上げる行事として定着させていきたい。○職員のOJT研修については、研修後の職員同士の関わり方が変わり、業務改善や効率化につながったので次年度も継続していきたい。